



# シカによる農作物被害対策

シカによる農作物の被害は甚大で、芋の全滅、明日葉の食い荒らし、カボチャの苗からトウモロコシなど、農業を営む人たちの生活に大きな影響を与えています。現在は、毎日の鳥獣害防除員のパトロールによって、シカによる農作物の被害を減らしており、山で見ることはあっても、畑でシカを見ることは稀になりました。しかし、被害は0になっただけではありません。

有害鳥獣による被害は、村や、鳥獣害防除員による対策だけでは抑えることが出来ません。本当に被害をなくすためには、農家の方が各々で対策を練る必要があります。

そこで、今回は正しいネットの張り方や、お手本となる農家さんの張り方をご紹介します。

シカの畑への侵入方法は主に2通

り、土を掘って「下からくぐる」か、前足をかけてネットを緩ませ「上から」、もしくは穴をあけて通るからです。

① **ネットの下をきちんと抑える。**  
実はシカは下からくぐるが一番多いため、下こそシッカリ止めなければなりません。



下も土の中に埋め込み

② **しっかりとピンと張る。**

ネットがたるんでいると、前足をかけて、ネットを緩ませよう、破こうという選択肢を、シカに与えてしまいます。



◎ しっかりと張ったネット



× たるんだネット

③ **隙間をあげない。**

25センチの隙間もくぐることができ、縦長の隙間なら、20センチでも侵入可能です。

穴が開いた場合は、すぐに直すなど、被害の拡大を防ぐために年間通して点検・修理することが重要です。



池村達子さんの畑（式根島）  
上も下もシッカリ止められています。



結束バンドですぐに補修

式根島では、シカではなくキジの被害が多いですが、実際ネットをきれいに張り、被害を防いでいる農家さんがいます。シカもキジも個人の対策が最も重要なので、防鳥ネットや単管パイプの補助等を活用いただいで、作物を守りましょう。

## 若郷地区の農業

若郷地区に久しぶりに本格的な農家と農業用ハウスが稼働しました。



北村一男氏のハウス

かつて「きぬさや」の最盛期には、若郷地区にも20〜30棟のハウスがあり、市場での「新島ブランド」の一端を支えた時期もあったと聞きますが、今では農地調査をするたびに当時建てたハウスの残骸を見るのが虚しい状態です。

今回のハウスは、平成28年度に東京都の補助事業を活用し建設し

た2棟連立式で、ハウス内の設備にも相当なお金をかけています。



ハウス内の設備（施行中）

年間二十数種類の作物を順番に作っているとのことですが、現在ハウス5棟と路地でも一反部ほどの作付をしておられます。

すべてを島内販売しているとのことですが、彼には農業で十分生活ができる実績を作ってもらい、島の内外からやる気のある農業従事者を確保するきっかけをつくってもらいたいと願います。（森田一）

## 式根島のイチゴ

式根島へ移住して4年目、新規就農者として農業を始めて早3年目。

皆さんも一度は食されたかと思いますが、式根島産イチゴ「しまおとめ」の栽培をされており、伊豆諸島では初のイチゴ農家になれるよう邁進しております。



イチゴ苗の様子（式根島）

何故「なれるよう」なのかというと、イチゴ農家として認められるには五年〜十年かかると言われており、

私は、まだまだ駆け出しの「ひよっこ」だからです。

皆さんに新鮮で甘くて美味しいイチゴを食べてもらいたいとの思いで始め、少しずつではありますが収穫量も上がってきています。

今年の12月中旬頃より収穫販売開始予定ですが、本格的に販売されるのは来年1月に入ってからになるかと思われまます。



販売用のイチゴ

各商店さん、農協さんにも安定的に出荷できるよう頑張りますので、店頭でお見かけの際はご購入いただけると幸いです。（綾真吾）